国境の島　壱岐・対馬

狩場台　ヒストリアン

３ 世紀の史書『魏志倭人伝』に記す壱岐・対馬。博多港からは北西へ高速艇で壱岐まで1時間余、対馬は2時間 15 分。対馬は博多から約 130km離れ、フェリーなら 4 時間 40 分もかかる遠い島だ。この両島を 11 月に訪れた。

海上から見る対馬は『魏志倭人伝』に記す通り、山が海まで迫り、「土地は山険しく、良田なく、海物を食し、南北に交易する」という『倭人伝』の記述がよく理解できた。対馬は南北約 70km、中央を 600m級の山が連なり、島内を車で移動しても、水田・畑地は北部の西側で見られる程度、その僅かな水田で作る米で島内の需要は何とか充足しているそうだ

朝鮮通信使行列

対馬の玄関口厳原は、対馬藩主宗氏の城下町で、城跡、藩校跡、武家屋敷の石垣などが残る。江戸時代に幕府と朝鮮王朝との仲介外交を担った対馬藩は、朝鮮通信使の随行警護を担当し、藩士を釜山の倭館に出張、留学させていた。交流は今も続き、毎年 8 月第 1 土曜、日曜には、韓国から復元船が訪れ、朝鮮通信使の再現行列が行われている。

一方壱岐は、南北 17km、標高 100m前後のなだらかな丘陵の島で、島内各地に水田、畑地があり、農産物が豊富な印象をうけた。壱岐が麦焼酎発祥の地であることを、酒好きの方はご存知だろうが、島内には7か所の蔵元がある。また畜産も盛んで、壱岐牛は島内でも食されているが、良質の牛肉を提供する牛として、島外にも移出され、神戸牛や松阪牛として育てられているそうだ。

壱岐焼酎工場

この両島が国境の島であることを実感するのは、古くは 7 世紀に白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗後、防衛のため対馬に金田城が築かれたこと、平安時代の 1019 年に女真族の刀伊が来襲し、壱岐・対馬の住民を殺戮し、拉致していった事件。また鎌倉時代 1274 年、1281 年の元寇のとき、対馬西海岸に元軍が上陸し、少数で応戦した守護代宗助国が戦死、壱岐も攻撃され、元軍を迎え打った守護代少弐資時が弱冠 19 歳で討ち死にした歴史、近代以降は旧日本軍の砲台、要塞が各所に残る事実からである。

釜山山影と航空自衛隊レーダー基地

対馬北端の丘から、50 ㎞先の韓国釜山が遠望できるし、韓国の通信電波も飛んでくる。対馬東海岸の厳原港と比田勝港は、韓国から観光客が訪れる玄関である。釜山から対馬まで高速艇で 1 時間半の近さ、韓国からの観光客が対馬全体の 8 割を占めるという。島内のサインもハングル語が目につき、郵便局の建物までハングル語表記されていたのには驚いた。

このような地政学的位置から、韓国展望所の目の前に航空自衛隊のレーダー基地があり、対馬島内には、南部に陸上自衛隊、中部の浅茅湾(リアス式海岸で有名)に海上自衛隊基地があり、厳原には自衛隊官舎がある。対馬に何人の自衛隊員が常駐するかは、機密らしい。壱岐にも北部の無人島辰ノ島に、自衛隊が駐留する建物が築かれている。

ガイドさんの話では、対馬の人々は自衛隊によって守られていると意識しているそうだ。これまでの歴史が、国境の島という意識を人々に抱かせるのだろうか。

壱岐黒崎砲台

朝鮮国王から宗氏へ送られた三具足

対馬に元軍が上陸した佐須浦

対馬厳原港

韓国展望所